

これまでの牛肉輸出促進活動について



日本畜産物輸出促進協議会

目次

中央畜産会による和牛輸出促進の取り組みの経緯	1
和牛統一マーク策定の経緯	3
日本の和牛輸出プロモーション体制の検討	4
本物の和牛である証	5
牛肉輸出可能国及びその認定施設数	6
牛肉の輸出量・金額の推移（実績と目標）	7
日本畜産物輸出促進協議会 構成図	8
今後の牛肉輸出拡大に向けた課題	9
参考資料	10

中央畜産会による和牛輸出促進の取り組みの経緯

I

2007年 **中央畜産会『和牛統一マーク』**制定・使用基準設定
(平成19) (現在までに主要40か国で商標登録)



II

2013年

6月 中央畜産会に「輸出戦略検討委員会」を設置

9月 PR用小冊子「和牛(魅力編)」、「和牛(カット編)」、DVD「和牛」作成
(現在、魅力編は日本語・英語・仏語・中文・独語・蘭語・西語・伊語・越語の
9カ国版に対応、カット編は英語・日本語、DVDは英語・仏語・越語に対応)

この間、**シンガポール、ニューヨーク、サンフランシスコ**で和牛セミナー・試食
等プロモーションを実施、さらにEUの牛肉流通の実態把握、及び
国内各地で情報交換会開催

2014年

3月 戦略検討委員会、「今後の牛肉輸出拡大に向けた戦略と活動の方向性」をとりまとめ、8つの方策を提示、さらに今後の牛肉輸出拡大にむけた全国会議の開催(28日、140人出席)

中央畜産会による和牛輸出促進の取り組みの経緯

II

6～7月にかけて、**ベトナム、イギリス、ドイツ**でセミナー等プロモーション実施

10月 **フランス・SIAL** (欧州最大級の国際食品見本市) で和牛ブース開設
(見本市を訪れた15万人のうち、わがブースに1万人が来場)

III

12月 **日本畜産物輸出促進協議会発足(設立総会12月8日)**

2015年

1～3月 **ベルリン、ミュンヘン、フランクフルト、ロンドン、アトランタ、ニューヨーク**でセミナー等プロモーション活動を実施、また、九州および全国版シンポジウムを開催(200名参加)



和牛統一マーク策定の経緯

— ジャパン・ブランド確立のために —

1. 「和牛」統一マークは、平成19年3月、豪州産 wagyuが海外進出しはじめた時期と軌を一にして、将来の「和牛」輸出促進をオールジャパン体制で取り組むことを想定し、策定に着手。
2. 一般公募にかけ、540点の和牛マーク(デザイン案)の応募があり、現在のマークを選定。
3. 国際特許事務所を通じて、現在、世界40か国で商標登録。
4. 和牛統一マークは、現在、約40の牛肉輸出事業者が利用。
5. 既に東南アジア、欧米で、このマークが本物の証との理解が進みつつあるものの、さらなる徹底が必要。

日本の和牛輸出プロモーション体制の検討

「輸出戦略検討委員会」(座長:櫻井 研氏)は、今後の牛肉輸出拡大に向けた戦略と活動の方向性について、課題と方策を以下のようにとりまとめた。さらに、輸出促進団体を設立・これまでの事業者、産地がバラバラに実施してきたプロモーション活動を、ジャパンブランドとして統一的に推進することを強く提言。

- 1) 和牛統一マークの下に(オール・ジャパンとして)輸出事業者が結集し、日本産和牛の価値を高め・維持する行動が必要
- 2) 日本産和牛の強みを前面に出したPRが必要
- 3) 新しい国や地域には「JAPANESE 和牛」丸で出航を
～新しい市場の開拓・プロモーションには、統一看板を掲げ(国体参加ではなく、オリンピック出場の心構えで)共同で実施すべき
- 4) 消費者への浸透戦略により日本の和牛を現地で席卷させる
- 5) 現地での浸透には現地の食文化や食事情との融合が不可欠
- 6) 日本食・食文化、そして何よりも日本の食肉技術とともに現地で普及を
- 7) 日本国内からの活動で和牛輸出を活性化させる
- 8) 輸送・流通構造の改善により次なる強みも確保

本物の和牛である証 (他国にない品質保証の仕組み)

①血統登録証明書 牛の戸籍



②トレーサビリティ 生まれてから商品(パック)に なるまで



③格付 統一かつ均一な品質評価 (肉質、歩留り)

牛肉輸出可能国及びその認定施設数

国	アメリカ	カナダ	香港	UAE	シンガポール	マカオ	タイ	メキシコ	フィリピン	ベトナム	NZ	EU	インドネシア	ロシア
解禁年月	H17.12	H17.12	H19.4	H20.11	H21.5	H21.7	H21.10	H26.2	H26.3	H26.3	H26.3	H25.3	H26.11	H26.12
都道府県	5県	4県	6県	1県	6県	25道府県	20都道府県	3県	4県	12都県	5県	2県	1県	1県
認定施設数	9	6	10	1	10	56	47	4	5	37	9	3	1	2

※厚労省および農水省HPより中央畜産会調べ

※スイス、ノルウェー、リヒテンシュタインが対EU輸出食肉に適用される条件の適用を決定(H26.6)

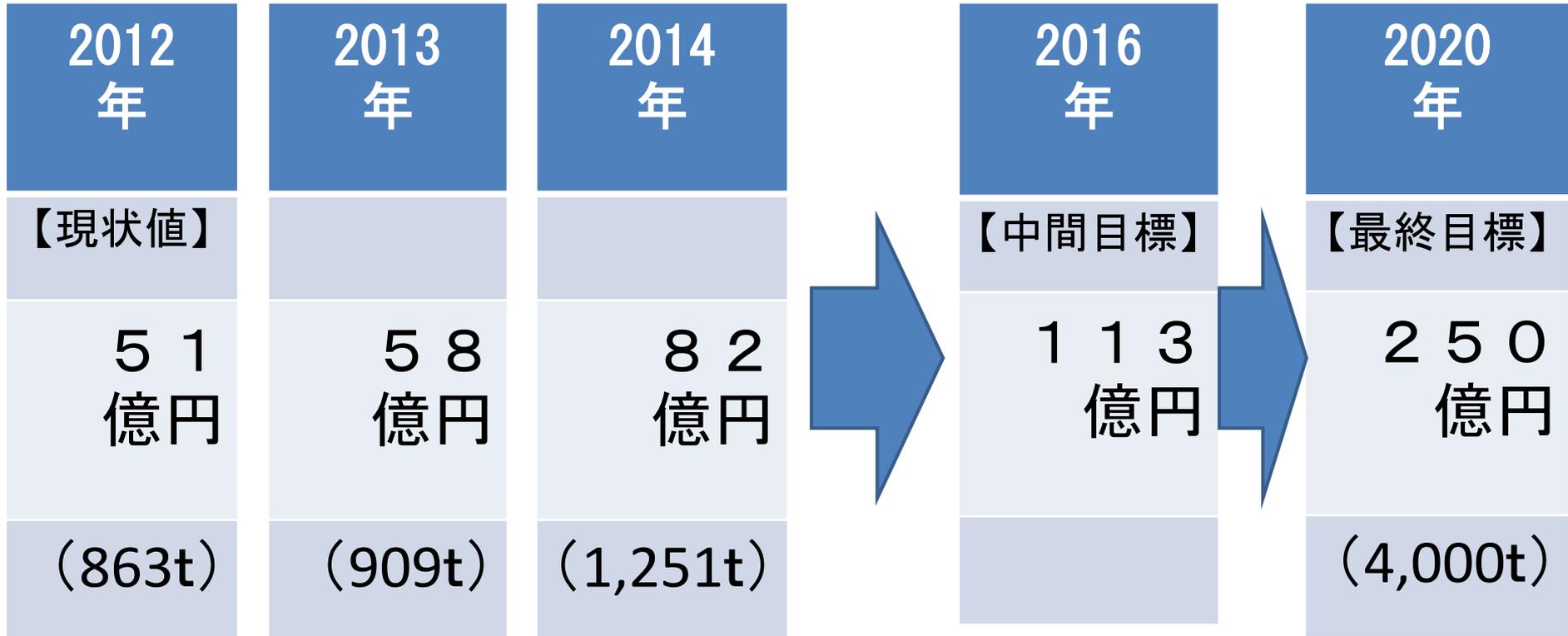
※カタールが対UAE輸出食肉に適用される条件の適用を決定(H26.7)。

※バーレンが対UAE輸出食肉に適用される条件の適用を決定(H27.4)。

(参考:25年4月時点)

国	アメリカ	カナダ	香港	UAE	シンガポール	マカオ	タイ
認定施設数	7	5	9	2	10	52	32

牛肉の輸出量・金額の推移（実績と目標）



日本畜産物輸出促進協議会 構成図

－ 輸出促進の司令塔的機能 －

日本畜産物輸出促進協議会

(平成26年12月8日発足)

牛肉輸出促進部会

44会員(生産者団体、食肉団体、メーカー、都道府県等)

牛乳乳製品輸出準備分科会

10会員(牛乳・乳製品団体等)

豚肉輸出準備分科会

10会員(生産者団体、養豚団体、メーカー等)

鶏卵輸出準備分科会

26会員(養鶏団体、メーカー等)

鶏肉輸出準備分科会

12会員(食鳥団体、メーカー等)

今後の牛肉輸出拡大に向けた課題

①海外伝染病発生時の輸出阻害リスク回避のしくみづくりが必要

・畜産物輸出を拡大していくためには、家畜伝染病の国内の侵入リスクを低下させるとともに、万が一、国内で家畜伝染病が発生しても、輸出への影響を最小限にとどめるような取り組みとしくみが必要

②海外類似の輸出団体と同様に、継続的なプロモーション活動が必要

・欧米などでは豪州wagyuがかなり先行している。一方で、日本産和牛の認知度は十分ではなく、本物の和牛の広がりには道半ばである

③認定施設増加による輸出増、かつより良い商品づくりのため、と畜処理・加工施設等の整備は喫緊

・認定施設の増が必要。特に欧米向けにはHACCP等に対応した衛生レベルの高いと畜処理・加工場の増改築が必要

④ロース中心からバランスの良い部位の輸出が必要

・目標金額達成のためにはロイン系だけでなく多様な部位の利活用が必要。このためには牛肉の分割・切り方という技術の指導、啓蒙が必要

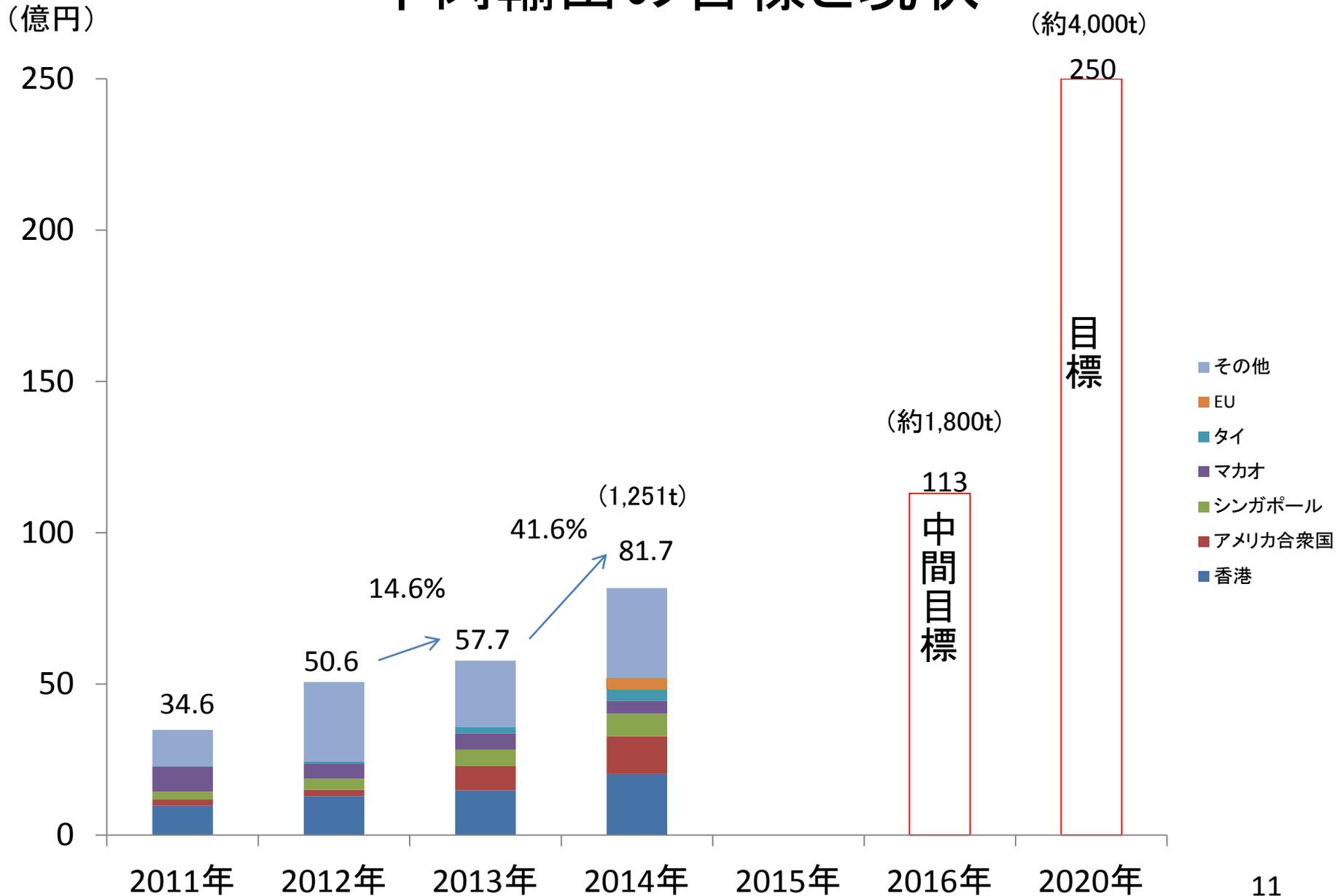
⑤牛肉の切り方、食べ方の教育、普及が必要

・和食としての食べ方とともに、相手国にあわせた食べ方の検討も必要。このためには、技術者を派遣し現地のシェフ等に啓蒙するほか、招へいも必要

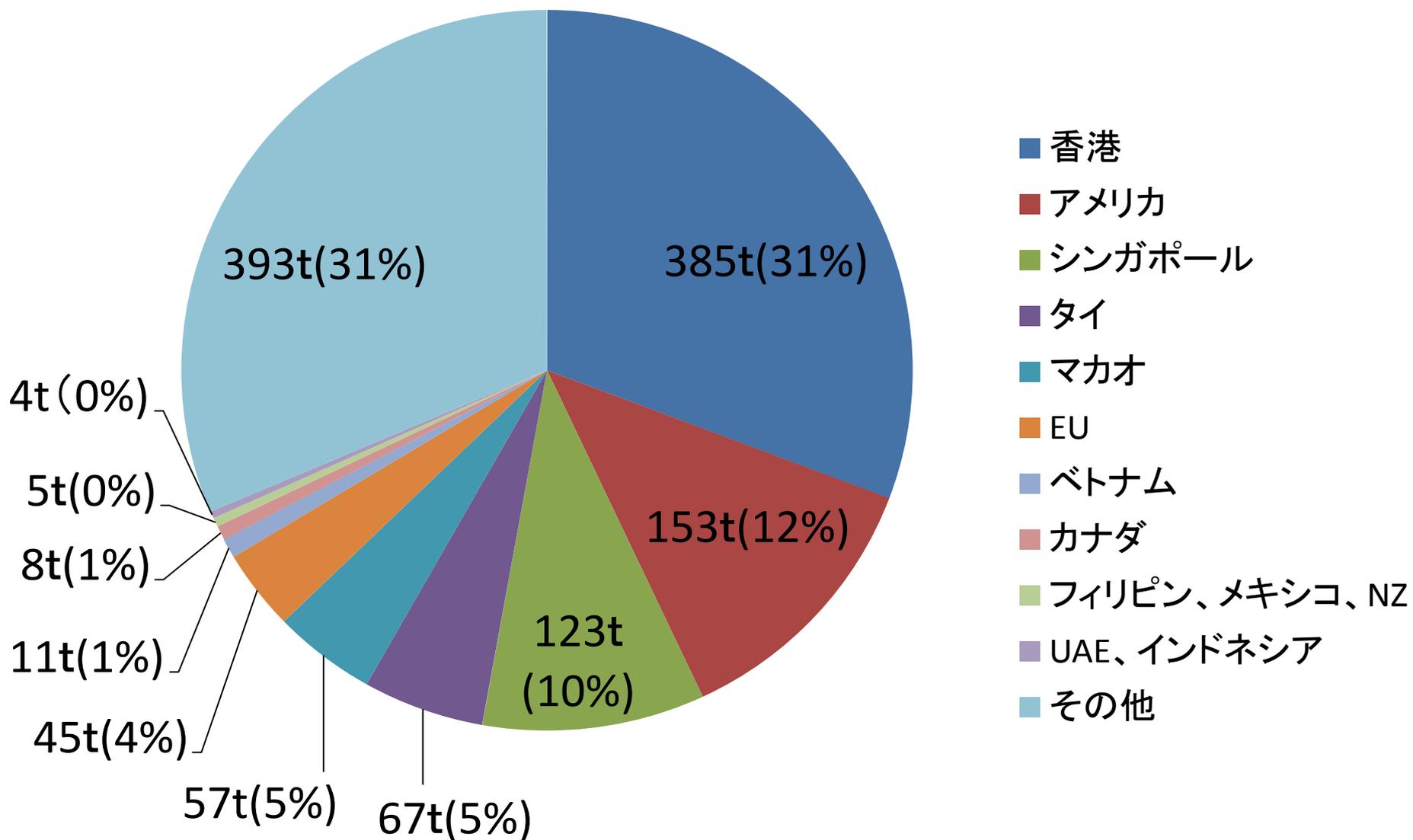
参考資料



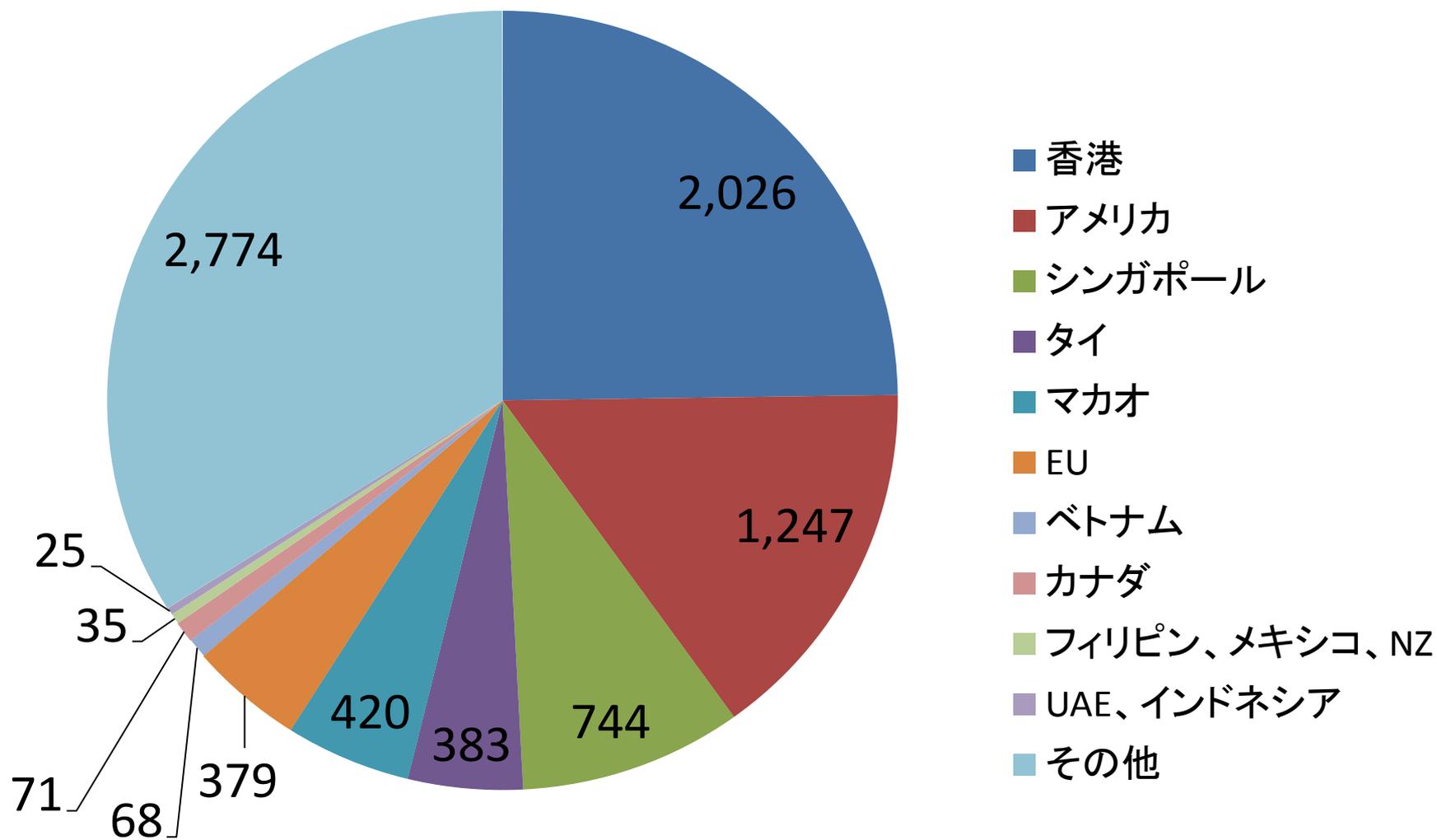
牛肉輸出の目標と現状



牛肉輸出量の国別割合（2014年）



牛肉輸出金額の国別割合（2014年）



単位：百万円

日本和牛の輸出価格(FOB価格)

対象地域・国	価格帯	地域平均価格
ヨーロッパ向け	14,900円～6,500円/kg	8,877円/kg
北米向け	8,900円～7,000円/kg	8,178円/kg
中東(UAE)向け	7,000円/kg	7,000円/kg
東南アジア向け	7,400円～4,600円/kg	6,145円/kg
全体の平均価格		6,500円/kg

牛肉の相手国別平均輸出価格(FOB価格)

国	平均価格 (千円/kg)	国	平均価格 (千円/kg)
スイス	14,870	アラブ首長国連邦	7,048
モナコ	10,597	フィリピン	6,985
イタリア	10,159	メキシコ	6,971
ベルギー	9,374	スペイン	6,454
デンマーク	9,368	ラオス	6,258
ドイツ	9,238	シンガポール	6,063
カナダ	8,860	ベトナム	5,997
英国	8,546	タイ	5,760
米国	8,151	香港	5,262
フランス	8,028	インドネシア	4,565
ニュージーランド	7,588		
マカオ	7,399		
オランダ	7,309	全体の平均価格	6,529

○平均輸出価格を相手国別に見ると、平均価格の高い順に、ヨーロッパ諸国、米国、中東、アジア諸国の順になっている。

○香港に対する輸出額が最大であることから、全体の平均価格を引き下げている。

主要国のサーロイン小売価格の事例 (1kg当たり価格)

	日本の和牛	豪、米等のWagyu	一般牛肉
英国	71,100円	(豪) 29,750円 ~43,270円	2,380円 ~8,300円
フランス	32,200円 ~33,600円	(豪) 36,400円 (米) 8,540円 (チリ) 22,400円	3,486円~
米国	P	(米) 7,930円 (豪) 8,810円 ~11,890円	3,960円
シンガポール	21,440円 ~34,246円	(豪) 5,430円 ~10,390円 (米) 6,630円 ~12,640円	7,760円 US Prime

日本の和牛生産・流通の状況

生産

肉用牛飼養農家
57,500戸

肉専用種
1,716,000 頭
(66.8%)

うち黒毛和種
1,663,000 頭

乳用種
851,400 頭
(33.2%)

枝肉

肉専用種
(と畜頭数)
529,567頭
(枝肉生産量)
233.5千 t

部分肉

(部分肉)
161.8
千 t

国産肉全体354千 t

輸入肉535千 t